

## 第9回狛江市教育振興基本計画改定検討委員会会議録

- 1 日 時 令和2年1月27日(月) 午後7時～8時15分
- 2 場 所 狛江市防災センター 3階会議室
- 3 出席者 委員長 渡辺 秀貴(学識経験者)  
副委員長 塚越 博道(社会教育委員)  
委 員 佐伯 英徳(狛江市立小・中学校代表)  
委 員 高橋 こころ(PTA委員長代表)  
委 員 佐々木リディア(国際化推進・環境教育有識者)  
委 員 氏家 嘉代(市民委員)  
委 員 中野 育三(市民委員)
- 事務局 上田 智弘(教育部長)  
宗像 秀樹(学校教育課長)  
高橋 治(学校教育課教育庶務係長)  
石渡 和香子(学校教育課教育庶務係)  
三角 紳太郎(学校教育課教育庶務係)
- 4 欠席者 委 員 半澤 嘉博(特別支援教育有識者)
- 5 傍聴者 な し
- 6 議 事 1. 議題  
(1) 第3期狛江市教育振興基本計画骨子案に対するパブリックコメントの結果について  
(2) 答申(案)の方向性について  
2. その他
- 7 会議概要

委員長 第9回狛江市教育振興基本計画改定検討委員会を開催する。本日は、半澤委員から欠席の連絡があった。事務局から本日の資料の確認をお願いする。

事務局 資料確認（次第，資料1，2確認）

委員長 第3期狛江市教育振興基本計画骨子案に対するパブリックコメントの結果について，前回までの委員会で，「第3期狛江市教育振興基本計画骨子案」をまとめ，中間報告として，教育長に提出した。提出した骨子案については，教育委員会でパブリックコメントを実施。その結果が本日委員会へ提出されている。本日は，「骨子案に対するパブリックコメントの結果について」，報告していただき，その取扱いを議論するとともに，最終答申案に盛り込む内容等について，議論を進める。まずは事務局より資料の説明をお願いする。

事務局 （資料1に基づき意見及び回答案について説明）

全体としては，具体的な個別事業の内容や，教育内容に関わる部分であり，骨子案を新たに変更するようなものは，ご意見としてはいただかなかつたと考えている。

委員長 貴重なご意見を教育に対する関心の高い方々からいただいた。事務局から回答案も示されているが，順次皆様のご意見を伺う。

佐伯委員 競争原理のところの意見はいじめに繋げている。もちろん必要以上の競争は避けた方が良いが必要な競争もあるので，もう少しやわらかい表現でも良い。4の5についても，学校現場としては1クラスの児童生徒数は少ない方が良い。しかし例えば数学，英語は少人数授業を行っているので，そこは教育効果を踏まえた上で，ただやはり基準は基準であるので簡単には変えられないことは触れるにしても，もう少しきちんと説明しても良いのでは。あとの回答としては良い。

委員長 4の2の競争原理のところ，ご意見の中身が詳しくは述べられていないので，回答の方針が難しいところではあるが，佐伯委員が言われるように，児童生徒の成長を見据えた教育的意義を説明する文言を入れて，その視点から過度な競争原理は充分配慮しているというような表現で。今，学習支援員や小学校では低学年の音楽専科講師や学生等入っている。国の基準としては，この学級編成基準が原則なので如何ともし難いが，市としては都の制度としての少人数指導体制や市独自の取組みとして教員や支援員を入れているということは触れておき，できることとできないこと，ただその方向はおっしゃる通りということが伝わるとより良い。

中野委員 説明会では、意見はあったか。

事務局 説明会では、3番の1のご意見はいただいた。

副委員長 計画と施策や事業をなかなか理解しにくいという部分がある。個々の事業を入れたいということはわかるが、そのところが混在している印象を持った。特に教育理念や教育目標は、市の教育委員会が定めたものであって、計画づくりのなかで修正や改定はできないというところを、もう少し明確に言っても良いのでは。計画で示す方向性と個々の事業と施策は違うというところを回答した方が良いのではないか。本文を修正しても良いと思ったのは、3の2の図書館の部分。現状、施策の方向性が図書館の利便性や利用率の向上を図るというところしかうたっていないので、事業の充実や機能の強化は取り入れても良いのでは。図書館は本来、図書資料を充実させることにより色々な市民要望に応えられる。今後図書資料の購入費を増額してほしいといった要望があることも考えられる。図書資料の充実と強化を加えるとこのご意見に多少応えることができる。他の回答は良いと思う。

高橋委員 回答はご意見をいただいた方だけにするのか。

事務局 回答は広報やホームページで公表する。

高橋委員 貴重なご意見ばかりだと思う。もちろん行政としてはここで聞くことではないという回答になるのは仕方ないと思うが、意見を出されている方が勘違いをされているところもあると思うので、もう少しそのあたりを踏まえた表現と、貴重なご意見ありがとうございますというお礼から始まって、意見は担当に伝えるくらいの一文があっても良い。そうした表現であれば、出してよかった。次も何かあったら書こうと言う風になるが、現在の表現では次は出せないという風になってしまう。

委員長 純粋な感覚だと思う。

氏家委員 私も同じ。今の回答内容ならなぜ私たちに聞くのかと思ってしまう。意見を踏まえてこういうことならできる。担当に伝える等の一言があると、こちらの言っていることをわかっているなというのが市民感覚としてはあると思う。

- 委員長 広報では、どのくらいのスペースで載せられるのか。
- 事務局 主な意見と回答のみ。資料の1/3程度。
- 委員長 これまでの議論を踏まえ、理念や基本方針の部分については、中間答申のとおりとするが、皆様からいただいたご意見は施策の段階で生かしていく方向で検討していくという総括を個別意見や回答に加え入れることとしたい。また個別の回答は、書き方が難しい部分もあるが、狛江の教育を良くしたいという思いでご意見を出して下さった方の気持ちを汲んだ回答を用意していただきたい。
- 事務局 ホームページでの公表に当たっては、冒頭にお礼と参考に出来るものは今後参考にしていきたいという趣旨の文言に加え、個別の回答を記載する。3の2と4の2，4の5に関しては、委員長にも相談の上、再度回答案を作成する。
- 委員長 では、パブリックコメントについては概ねこの方向で。表現の仕方について少し工夫して回答していくということによろしいか。それでは、議題2. 答申（案）の方向性について、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 （資料2に基づき説明）
- 委員長 第2期の計画の取組みを総括した成果と課題については記載した方が良いという意見が教育委員会であり、この委員会でも総括として関係各課の課長に来ていただき、質問や各事業について説明いただく機会を設けた。それを踏まえて整理して追記している。
- 佐伯委員 7ページ文字の問題で、学習指導要領の改定を改訂へ。
- 委員長 続いて、各基本方針の施策の、例えば基本方針1では、施策を3つあげているが、何故3つに絞られているかというところを説明する文章をここに加える。これは各基本方針同様にするという説明があった。これについてはその方がよりわかりやすくなるのでこれまでの議論を踏まえ事務局で整理することで良いか。

(一同 了承)

事務局 文言の修正で16ページ。STEAM教育をSTEAM教育に訂正。

佐々木委員 17ページSDGsをSDGsの達成に向けた教育に追記修正。

佐伯委員 STEAMについて。高等学校の学習指導要領にそれが明確に打ち出されている。もちろん、それがあからこそ、主体的な深い学びや横断的な学習が必要となる。特に高等学校の総合的な学習の時間の位置づけや意義を説明する上で、様々な教科が細分化されているので教科横断的という意味合いが出てくるが、公立小・中学校を受け持つ教育委員会の方向性に入れるのはどうか。正直STEAM教育という用語そのものは現場では使っていない。

教育部長 佐伯委員の言うとおりの、小・中学校では明確にはされていない部分ではあるが、高等学校でやるというのはわかっている。これからは問題解決をしていくための教育が必要なのではないかという意見があり、入れている。これは指導室長とも相談したが、明確にSTEAM教育を入れるのはなかなか難しいという部分もあった。そこで文言としては、STEAM教育を見据えた教科横断的な学習という表現にし、注釈の部分でSTEAM教育の説明をすることを考えている。主な事業例についてはSTEAM教育という言葉は出さずに教科横断的な学習という記載にしてはどうかと考えている。

委員長 そうするとSTEAM教育が入るのはここだけで、基本方針や施策展開の方向性のところに出てこない。注釈で解説的に触れるということか。

指導室長 STEAM教育という表現を加えるかどうかについては、事務局でもかなり議論になった。学習指導要領には、小中学校ではSTEAM教育という表現自体出てこないが、高等学校ではSTEAM教育を推進すると位置づけられている。今年度の教育再生会議の中で、STEAM教育を推進するという議論になっていることを鑑みると、今小・中学校の段階ですぐにSTEAM教育という文言は出てこないにしても、高等学校でやっているということは、そこを見据えた教科横断的な指導は盛り込んでいった方が将来的には、良いのではないかとということで、敢えてこういう表現の仕方とした。

委員長 教科横断的な視点で各教科の授業をとすることは、小中学校でもこれから実施していくことだが、それは別にSTEAM教育を目指している訳ではなくて、

難しいところだ。5年後、この表現自体なっているかもしれない。小・中学校では違う形になるかもしれない。AIの進化など、STEAM教育の先を行くかもしれない。教育委員会内部でそういう議論があって、残しておくのが良いという結論ならば、教育委員会としてこれをたずねられた時に、具体的に小・中学校の教育活動が高等学校のSTEAM教育に生きて働いてくるという説明ができれば良いと思うが難しい話だという印象がある。

副委員長 STEAM教育を外し、教科横断的な学習だけではどうか。

指導室長 今STEAM教育自体は、文科省主導というよりも経済産業省主導でかなり進められているが、産学官を連携した教育という大きな枠組みの中の1つの取組みとして、STEAM教育はこれからの世界の潮流だという説明は、文科省の中でもかなり出てきている。それらを踏まえるとSTEAM教育いう文言が小・中学校でも何かしら出てくる可能性があるということを鑑みて敢えて少し触れたという状況。ただこれにより狛江はSTEAM教育を推進していくと誤解を招いてしまう恐れはある。

教育部長 委員会としてはここでの議論を踏まえて削除することで良いが、本計画は教育大綱としての位置づけもあることから市長部局として産学官一体となった教育を進めていく観点から入れて欲しいという意見が出る可能性はある。

佐伯委員 現在の表現ではSTEAM教育ありき。そうではなく小・中学校の現在行っている教科横断型の取組みが、そこに繋がっていくのだという説明であればむしろ必要かもしれないと思う。

事務局 確かに。現在の表記では、STEAM教育を目指して教科横断的な指導・学習をしていくというようなニュアンスにとられる可能性がある。

委員長 急に個別の教育名が出てきているのが違和感の原因では。STEAM教育の中で強く意識してやらなければならない横断的な学習などが高等学校におけるSTEAM教育に繋がっていくというようなニュアンスの書き方にできれば良い。

事務局 教科横断的な学習を推進していくという表現にし、それが高等学校におけるSTEAM教育に繋がっていくことと、STEAM教育はそもそもこういうものということ注釈で説明する方法も考えられる。

佐々木委員 脚注の説明ならそこまでプレッシャーにならないかもしれない。本文にSTEAMは入らないけれど、教科横断的な学習が出たところで、米印で下に説明を書くと少し軽くなる。

佐伯委員 教科横断的な学習を説明してもいい。小・中学校においてこういう学習をしている。それは実は、学習指導要領の中にあって、STEAM教育につながるというような。そこを説明すると誤解がない。

副委員長 教科横断的な学習が本文にあり、その解説のところに高等学校ではSTEAM教育というのがあり、そこにつながるというような表現であれば誤解がない。

委員長 (4) 生涯を通じた学びの充実は、最初細分化されていたが、整理されわかりやすくなった。市民センターの改修が影響してくるという説明もあったがパブリックコメントを受けて、図書館機能の強化・充実に向けた検討を行うという文言を入れることでよろしいか。

副委員長 市民センターの改修が影響するかもしれないが、資料の充実、機能強化も検討していくという表現で良いのでは。図書資料は図書館に配架されているだけではなく、他で保管されているのではないか。そういったところを使い蔵書数を増やすことは可能では。

事務局 そこも一杯になっている。公民館もそうだが、敢えて機能充実とか書いていないのは、あり方検討委員会の最終的な方向性がまだ不明なのが大きい。建て替えるなら、蔵書を増やしたり学習室を増やしたり機能強化を図れるが、同じ規模での建替えとなると、機能強化がどこまでできるのか。そこが出てこないで機能充実等盛り込みたいが書き方が難しい。

委員長 決まるのはいつごろか。

事務局 市長部局に答申は出されているが、まだまとまっていない。今後市民アンケートも行い、より多くの意見も入れた形で最終的な方向性をまとめる考え。現段階では書き方は難しい。市の基本計画と整合性を取るのが基本だが、基本計画もあり方検討委員会を踏まえてというような書き方になっている。明確には図書館の機能や公民館の充実までは踏み込んで書いていない。

副委員長 施設の改修などを行う際に機能が低下したり、蔵書数が減ったりすることは基本的にはないはず。多少なりとも増えたり、システム化されたり、機能強化がされるのでないか。計画の中に、入れても良いと思う。

委員長 充実には量だけではなく質的なものもある。例え施設が古くても、中身や質的には現代的な物だったり、市民ニーズに応じた情報を充実させていったりすることも考えられる。計画に入れることで良いのでは。量より質でやる。市民センターはどうあれ質の向上を目指しての計画なはず。それで説明できるのでは。

事務局 教育大綱としての位置づけもあるので、どうなるかわからないが機能充実に向けた検討という表現を入れることで市長部局と調整する。

委員長 他に意見はあるか。なければいただけのご意見等を踏まえて最終案の整理を事務局の方でしていただく。

事務局 パブリックコメントの回答については、委員長と事務局で整理をしたものを正案とすることよろしいか。

(一同 了承)

委員長 次に、事務局から次回の日程の確認を。

事務局 次回、第10回最終回は、2月10日(月)7時から。本日いただけのご意見を踏まえ最終答申案をまとめる。資料はなるべく早く送付したい。

委員長 今回のものと見比べ本日の意見が反映されているかどうか確認した上でご参加いただきたい。これで狛江市教育振興基本計画改定検討委員会第9回会議を終了する。